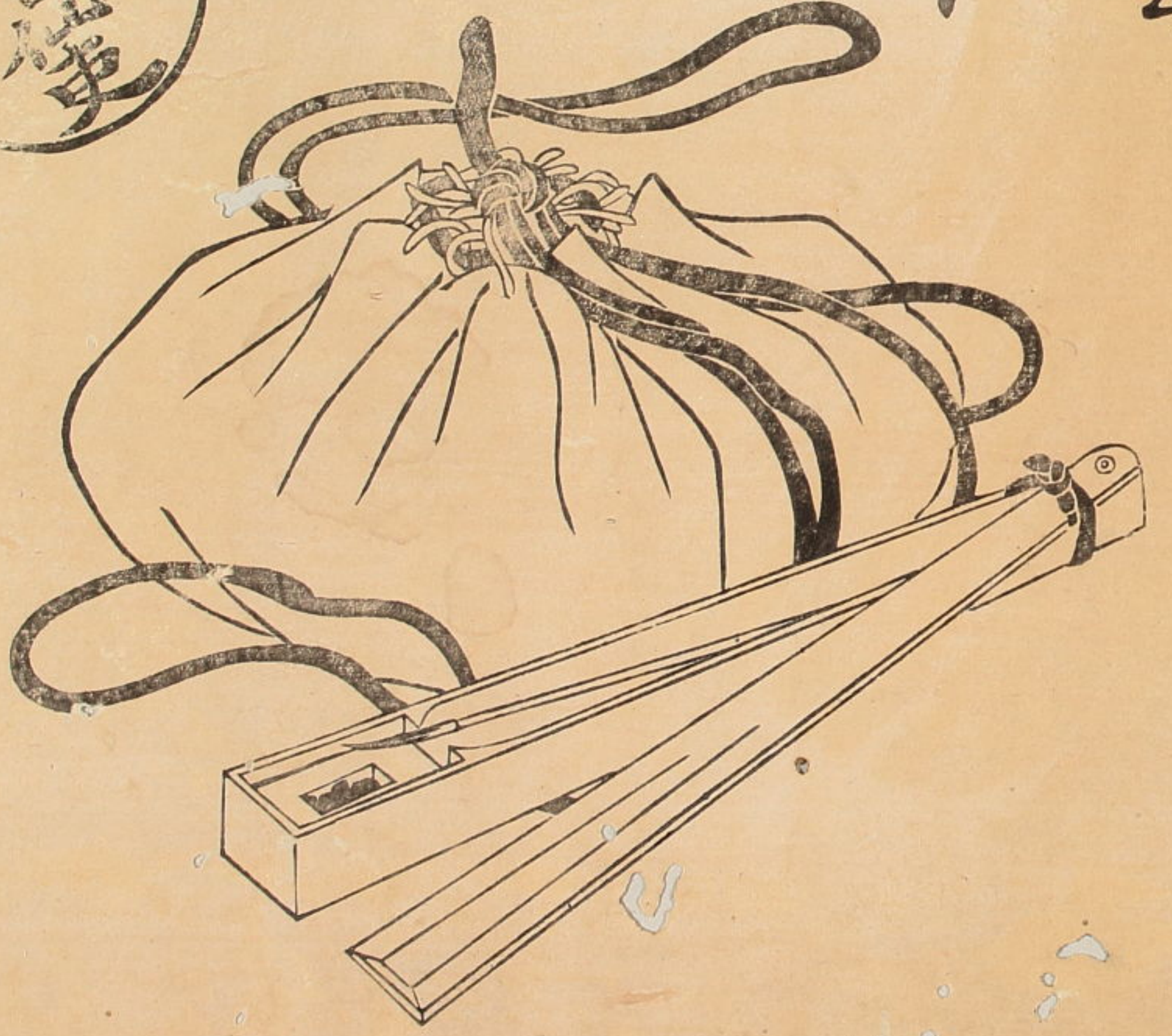




風月隨方里
古人於畫之流
花多為道人求
詞友於畫方
戊午年秋
八子先人西
樵道人歌

藥名錄



かゝあまのこもちちよ氷室守。大江丸
落し流乃女を流し弟も丁江
ほつきは丁室の糧をうけり夏江
短夜を待うれきしぬ言染ふ糸
鴨牛まらへと角をねりきり不深
布鞆木を撫井の絶ては親我
見れをいよ上並ひのきす友推如澄
色なきし結子の露はもるる島氷几

雲飛くまのく人へとくれり
即乃花やまらり嘆く雨とたり五陵
乾き砂ちし水鶴のまの之雨待
いさきに水うのや夏は月ま
と骨きしぬおほはる哉薄氷
初茹ま草乃食毛着も熟人湖水
阜月園きよなりやきり毒離鳥
よれ流し毎のういそち心堂止行

鼓子むしの葉をちほれりて記柱
手りりてうごく處之雲のた
洄水
吹止んとぬる子見ゆ敷哉
有圭
水月うあつと夜よ雲を
見了
嵐山
うん車やうわう人し旅又記し
半輪
夜よ倦て敷く海投る朝戸系
佳南
曉りもて敷人ありき田うら
小田輝
照射りてうた枝垣をまの
浪連

おま記を思ふ

葛城一夕まらぬ敷あり
子稿
雨雲の南り低き五月のな
三千里
致密くや歎濺くまに乱れ
李卿
とふ螢火るるをり行くとよ
馬羊
梅雨をれと淋く夏ゆく月夜
多
李遊
共昼とたふとまらぬ風う
ほり
番宥
下園の風を水より吹り
可来
行脚
秋やりの橋ちさきよ鼻月
雨
孤周

夏乃月半
かよのふや流れを
見し雨の中
竹雄
風蘭う
眼を
雲太
鶴
夜乃
障
其乙
朝
我
露
其芳
雲
竹里

雨
短之夜
草卧
誘水
朝
いふ
般
ゆ
是
吹
鼓
標
亭

涼——きや人を記あきぬ夜乃雨友國
松の葉の落ちるまれば日和ふ万和
秋也——格ふさとのほる鹿のひけ八子
夏乃月楊柳橋を覆ひ糸正雲守
涼——やといを起とまれば人ふ成養
雲の暈はく——が一里あまうと于心
之——とほつ——言をたうて哉月居
詩——まの黄き作——のきりてる不二

朔うけ又秋も葉まぐいとまう那吐圓
夏萩乃露り——と明又夕星雲舟
苗落の童来うたり草つらふ林岫
まのく——と醜へ放ちやる小鯨哉桂舎
河骨や水の底よりほく——とま竹春
雲分るうの影鼻月乃棚田哉舎芳
澄の影いと筋——水涼——子譚
朔あく——暖いあれとそちを記連群松

きくと風の撲むや、くく竹^婦ゆ記
夏乃月啼、女小多のいさうゆく 蟻房
涼くきふふとく多れ合佛哉 東門
海月取、く浪と浪まう勢乞 橙五
そく高く扇ひて酒く危 雪亭
脛越くく大日板うら田植哉、廣布
箒火乃雲く入くく所被門 戸角
朝ひく草露后葛の望とけく 二瓢

ちまくと牡丹乃露れくく哉 圭々
暑く白さを消くく井とく守りく 房水
そくく女に都乃衆や薄羽織、湖水
卯乃むくくゆくく月入又く 不潔
雨乞や唯まれくく乃枝蛙 洄水
午時の蚊く伽羅董くくくまきせり 親我
形代や脊くく月のまき淋く 記柱
星折く火串乃松明よかふれく 木陵

ほろろきん夜細乃井と八遠くは雨降
むらさきの露のそら高の花 嵐山
鼓子むら 豹瓶の雲くまの 小田輝
水無月や 園の西風のむらさき
毛やくの園の戸 越後夕立哉 桂舎
花の色思ひ 毛虫哉 破山
つらつら同又戀しとそ飛ぼす 竹雄
喜あし 樗のまゝの弱けあす 三子里

翁き和うを執せしむる 雛うへへ行脚の
そらめやくよありと西上人の井をこころ
すつ秋男と歎け 狂ふまぢちあぢと感
はう風と思ひ出ぬるま

捨ぬきし 妻又捨つる 思ひ出ぬ 宗房
あしや人乃衣とやふ

むら 竹乃雨さし 夕とみ 義仲 松昌
あしあぢもつれち 蝸牛 桃夫
白芥子や 露とつれを 是より 子 譚
危葉 麦うめり 咲又 孤 周
玉水や 暮えんと 梅乃井 中 御

鼻月雨乃以まや烟雲乃松昇る。丁江
板とてハウとたふとく藜々那竹里
致り飽く編幅たつとや血を吐く不漣
井中一涪の暖磯や朝く花水鶏李遊
とくくくと鹿子つと名鼻月暗雲太
月入く幼涼教人乃まくれさう李御
山鏡の多きとく教くや人悲一田鶴
入梅晴や古院乃酒の強くさき舎芳

即興一抄

死ほく教人乃かむのうらや東門
少く多の稻く北きそよりと橙五
八丈乃機との家乃ちいさく佳南
甘さき酒乃まくと走く八子
毛浴ここの詩地教非し月よ交五
きこ志の赤くむ露乃まよく南
礎く鹿の尿く乃まよくさる手

朝戸町と女をさし出。南
夜多しとて千段さきひけり流行あり
浪風さし水色乃衣五
衛さし三里の道ある一里南
美野の百合根を糧り貯へて
搦手の大釜みくききとちれ、五
松明さしかゝり数十六夜の雨
しほさし女愚り服を居る子とて

胡麻子代まつ季秋のり、南
花の煙を爺テいお后カウさし観ミ五
まし帆震る落敷築さし、

下略

繁焼くあさひさまよふ交乃起し友國
夏乃月疊はめさし覺え事重 佳南
短夜やしぬる鶏の声し止行

袖鉈雨を敷方へ膝行あり。夏江
猫乃子や羅着る方遠く二瓢
夏きくや濡て毛露の向きく
草又風静なりきほりふ 籬鳥
編幅やいさくこれより入 其芳
早乙女乃手ハ諸人の乳房より釣懸
くま切蓮より凡るほりき 有佳
夕ほり懸見くあふ小雨哉 馬羊

鹿の子又弓箭を捨てあそびたり 普宥
行衛ちた雨又敷き乃雨なり 子橋
百川を吸とき見えぬほり敷哉 群松
夜明る行義りかふる花より行 亀子
飯喰り浅沢より田植りあ 魚俵
凡作石の枕やかきひ若し 手輪
鯨啼やと玉く柱より玉敷 破山
ほり敷火や先より毛人の声しあす 尺龍

夏書まとやりり由りしとるるはは 大江丸
白帆や さらりののぬいるる肩水凡
雨乞乃降まのなるる并ししし 鴉雪
六月乃固をうらうはは火ら那 其乙
軒まめめのの山山先先物物とと夏夏乃月 和丁
本とととのの夜夜ふふくく 爰於月の前前 雪
南風やや 柳守のの脊脊戸戸のの明明とと 林油
楠乃葉の落落とと飯飯ををりりにに交交りり 吐吐 園

福うままやや 筑筑ににままるるとと馬馬とと 壺仙
人陰之之月月夜夜ととちちりりとと 猶涼とと 雪亭
去去るる雲雲のの人人行行我我ののかかここ多多 竹森
日はららりりやや 羯鼓のの鼓鼓のの音音けけ之之 北堂
鳩啼ととううのの鳥鳥くく 乃乃とと平平 浪連
去去良良山山やや 去去るる雲雲消消とと喜喜ああいい 交交 音音
ほほとと熟熟飛飛とと 鶉飼のの窓窓乃乃志志ののちちりり 馬遊
朝清水水志志ととつつとと流流れれとと 万和

たまぐり田井見つち斗り陳鼓る 東門
登りほや行ふ人そあれは何れ 磯房
うらひもや 急橋り喜をうくす 橙五
夜鴨やたそりとは良の夕日新ハチ

標題をうろたふと後學りれを
はしめを乞はし路里を需は

